

令和6年度

奈良市地域教育推進事業に関するアンケート調査

(報告書)

令和7年5月

奈良市教育委員会事務局 地域教育課

＜調査内容＞

1. アンケートの趣旨

本市では、平成 23 年度より「地域で決める学校予算事業」と「放課後子ども教室推進事業」を奈良市地域教育推進事業に位置付け事業を展開している。

これまでの事業に対する成果と課題を把握し、次年度の事業に生かすことを目的として、各地域教育協議会及び各学校園に対してアンケートを実施する。

2. アンケートの対象

中学校区地域教育協議会会長(21 協議会)

総合コーディネーター(21 協議会)

代表コーディネーター(95 委員会)

各学校園(管理職及び地域連携担当教員)(95 校園)

3. アンケートの実施期間

令和 7 年 3 月 10 日～令和 7 年 3 月 21 日

4. 調査内容

- ①現在の職・立場について
- ②事業を実施する中で感じた効果について
- ③他団体や企業等と連携して行った活動等について
- ④事業を実施する中で感じた課題について
- ⑤課題を解決するために必要なことについて
- ⑥管理職以外の教職員の事業の認知度について(学校園のみ)
- ⑦管理職以外の教職員との関わりについて(地域のみ)
- ⑧学校運営協議会の委員について(地域のみ)
学校運営協議会と地域学校協働活動、地域教育協議会の関わりについて(地域のみ)
学校運営協議会と地域教育協議会等の役割の認識について(地域のみ)
- ⑨今後特に必要と感じる地域教育課の支援について
- ⑩その他事業に関するご意見について

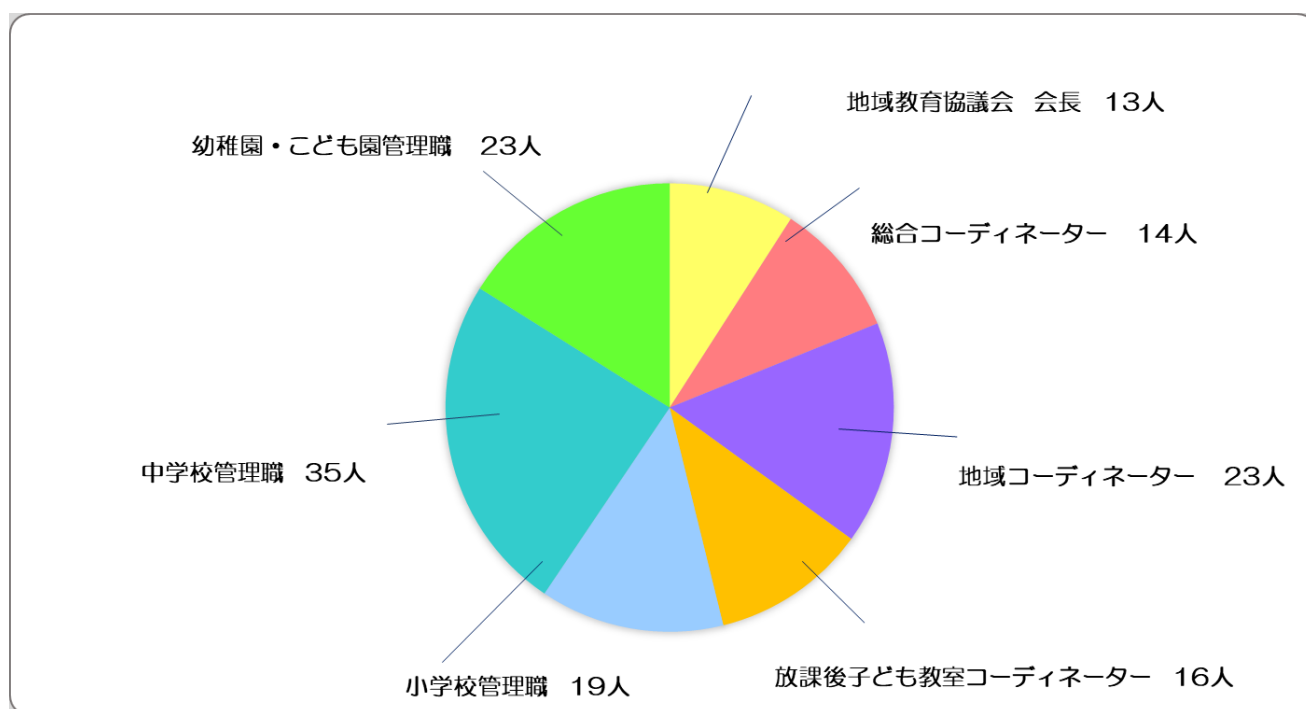
5. アンケートの回収

143 件の回答

令和6年度 奈良市地域教育推進事業に関する アンケート調査結果

① 現在の職・立場について

【回答数】 143 件(地域 66 件・学校園 77 件)
昨年度 178 件(地域 75 件・学校園 103 件)



② 事業を実施する中で感じた効果について（複数回答）

地域と学校園の双方とも「子どもたちの体験や経験の場が増えた」という回答が最も多く、子どもたちに地域学校連携活動が体験・経験の場を提供し、効果を感じていることがわかる。また、「子どもたちの地域に対する理解や愛着につながった」に多くが回答していることより、活動を通じて地域への理解が深まり愛着心が育まれていると感じていることがわかる。ただ、教育環境の改善や、家庭、地域による学校への理解に関する設問の回答割合に地域と学校で差異が見られる。

項目	地域（回答者数66）		学校園（回答者数77）	
	回答数	割合	回答数	割合
子どもたちの体験や経験の場が増えた	62	94%	72	94%
子どもたちの規範意識、社会性の向上につながった	23	35%	25	32%
子どもたちのコミュニケーション能力が向上した	32	48%	43	56%
子どもたちの学習意欲が向上した	21	32%	27	35%
子どもたちの地域に対する理解や愛着につながった	45	68%	63	82%
教職員の負担が軽減された	16	24%	17	22%
教職員が地域連携に対する必要性を感じるようになった	22	33%	42	55%
教育環境や教育条件の改善につながった	8	12%	24	31%
家庭や地域の学校に対する理解が深まった	25	38%	45	58%
地域や家庭による学校支援活動が活発になった	24	36%	31	40%
地域住民のつながりが生まれた	36	55%	31	40%
その他（自由記述）	0	0%	1	1%
	314		421	

回答数が上位3位までの項目

順位	地域			学校園		
	項目	回答数	割合	項目	回答数	割合
1	子どもたちの体験や経験の場が増えた	62	94%	子どもたちの体験や経験の場が増えた	72	94%
2	子どもたちの地域に対する理解や愛着につながった	45	68%	子どもたちの地域に対する理解や愛着につながった	63	82%
3	地域住民のつながりが生まれた	36	55%	家庭や地域の学校に対する理解が深まった	45	58%

【その他（自由記述）】

〈学校園〉

- ・大きく感じる効果は、薄かったように思う。

③ 他団体や企業等と連携して行った活動等について（自由記述）

※団体で同じものは、まとめさせていただきます。

団体名	活動名
奈良県立大学	学生との共同学習
第一学院高等学校	放課後子ども教室校庭開放
県立奈良高校	イベント(フェスタ)、理科実験教室
奈良市立一条高等学校(附属中学校)	イベント(歴史ウォーク)
近畿大学	ニッポンバラタナゴ保護活動
特定非営利活動法人グラミーゴ奈良三笠	ドッジボール教室
奈良クラブ	サッカー教室
NTTドコモ	ドッジボール大会
バンビシャス	バスケットボール体験
スポーツコミュニティーセンターAMI	軽スポーツ、ミニゲーム
ダイヤモンドテニスクラブ学園前	テニス体験
レオソルススポーツクラブ	スポーツ鬼ごっこ
YMCA	ダンス、体操教室
エンジョイボッチャチーム	ボッチャ大会
スパークル	バルシューレ(ボールを使ったあそび)
平城ニュータウンスポーツ協会	学校部活動地域移行に関する諸活動
平城ニュータウン理科実験研究会	クラブ活動、理科実験教室
電子自治アドバイザーチーム	クラブ活動
地区連合会、民生児童委員、 社会福祉協議会、包括支援センター	ボールあそび、ボッチャ、サッカーボウリング、お祭り等 車いす、白杖体験、福祉体験学習等
あすならホーム富雄	福祉体験学習
NPO法人 きららの木	ボッチャ大会、福祉体験
自主防犯防災協議会、女性防災クラブ	避難訓練、防災訓練、餅つき、地域清掃活動等
地域老人会	昔あそび、グラウンドゴルフ、絵手紙、平和学習等
観光協会	カードゲームづくり、ポスター、マップ作成、
県立野外活動センター	放課後子ども教室学習、レクリエーション活動
地域振興協議会	マラソン大会、体育祭サポート、防災マルシェ等
地域趣味グループ	交流活動(和太鼓・押し花・お茶体験、読み聞かせなど)
チェルビアット絵本店	巡回絵本原画展
クロスウェイなかまち	学区ブランド産品活用
カインズホーム	イベント(防災フェス)
奈良商工会議所青年部 ビジネス能力開発株式会社	キャリア教育、職場体験等
アンガーマネージメント協会 獣医師会・助産師会	いのちの学習、いのちの授業

トヨタユナイテッド奈良	交通安全教室
西大寺	大茶盛体験
奈良人と自然の会	米つくり体験
陶和会	陶芸教室
寧鼓座	和太鼓教室
生駒ウィンドオーケストラ	コンサート
NPO てんもんぶ	科学教室
梅溪保勝会、梅の資料館	梅干し、梅シロップづくり
埋蔵文化センター	郷土学習
茶業振興会	手もみ茶体験、闘茶会サポート
株式会社 和創	サツマイモ学習
ミラツソ株式会社	地域・教員合同研修(不登校支援)
株式会社 日本コスモトピア	学習活動支援
まほろばソムリエの会	カルタあそび、郷土学習
イオンモール学研奈良登美ヶ丘店	クリスマスイベント開催
能楽 金春流	能鑑賞
富雄診療所	ボランティア部慰問
子育てセンターお陽さま	ボランティア部との交流
愛歩21	アルミ缶回収活動のサポート

④ 事業を実施する中で感じた課題について（複数回答）

地域・学校園とも「活動における人材の不足」の回答が過半数を超える。自由記述には「人材の高齢化と会長等の次の担い手がいない」とあり、事業に関わる担い手の不足が運営の中心人材にも及んでいる現状が伺われる。また、地域は「コーディネーターの負担が大きい」と「事業に対する理解の不足」が上位を占めており、自由記述にも「協議会への認知度の低さ」（地域）とあり、事業への理解が不足していると感じている。学校園も、「地域との連絡調整や活動に対する教職員の負担が増」と「コーディネーターの負担が大きい」の回答が上位を占めており、自由記述には「教員の働き方改革と事業の気質が合わない」との意見があがっている。

項目	地域（回答者数66）		学校園（回答者数77）	
	回答数	割合	回答数	割合
事業に対する学校・教職員の理解が不十分	18	27%	13	17%
コーディネーターやボランティアの方々との連絡調整による教職員の負担増	10	15%	35	45%
土・日・祝日等の活動や会議による教職員の負担増	10	15%	22	29%
学校における活動拠点（地域ルーム等）の設置など受け入れ体制が不十分	9	14%	8	10%
コーディネーターと学校との連携が不十分	4	6%	4	5%
コーディネーターの研修や養成が不十分	4	6%	3	4%
コーディネーターの負担が大きい	21	32%	26	34%
コーディネーターが主体的に動けていない	8	12%	6	8%
活動における人材の不足	45	68%	39	51%
教育委員会と学校や地域社会との連携が不十分	11	17%	7	9%
学校園の課題や求める支援内容の共通認識が不十分	11	17%	8	10%
学校支援活動について学校と地域が話し合う機会が少ない	13	20%	8	10%
事業に対するPTAや保護者の理解・協力が不十分	21	32%	9	12%
事業に対する地域社会の理解・協力が不十分	8	12%	4	5%
課題は感じなかった	4	6%	13	17%
その他（自由記述）	3	5%	12	16%
	200		217	

回答数が上位3位までの項目

順位	地域			学校園		
	項目	回答数	割合	項目	回答数	割合
1	活動における人材の不足	45	68%	活動における人材の不足	39	51%
2	コーディネーターの負担が大きい	21	32%	コーディネーターやボランティアの方々との連絡調整による教職員の負担増	35	45%
2	事業に対するPTAや保護者の理解・協力が不十分	21	32%			
3	事業に対する学校・教職員の理解が不十分	18	27%	コーディネーターの負担が大きい	26	34%

【その他(自由記述)】※同じ内容の回答はまとめさせていただいております。

〈学校園〉

- ・地域予算の使いにくさ(国の予算が入っているので、仕方がないと思うが・・・)
- ・購入できるものの判別が難しかった。
- ・ゲストティーチャーとのやりとりのスタートを管理職が担うことで担任の先生方の負担を減らすように進めている。
- ・いわゆる「教員の働き方改革」と、地域との連携という事業がそもそも合っていない。地域には土日の地域活動に参加を求められるが、「働き方改革」の中、土日や夏休みなどの地域行事に教職員が参加するようには言えない。逆に、地域の方もお仕事を持っているため、平日の学校教育活動に入れる人材が非常に少ない。その中で参加する人材の固定化も生まれ、結局、偏った地域とのつながりになってしまっている。また、固定化によりその人たちがばかりに負担がいくことになり、事業の継続自体が難しい。この事業について、根本的に見直した方がいい。
- ・予算の使い方が大変難しく感じます。
- ・予算執行に条件が付きすぎて、どのような事業を企画し、どのように予算を使えばよいのかわからない。結果、前年度に予算を執行できた事業の焼き直しをするしか、事業を企画するすべがない。以前お願いしたが、各協議会の取組報告と、出納簿を公開していただけたら、地域教育課の方の手を煩わせることなく、どのような事業をどのような予算配分で行えばよいのか(予算が通るのか)、各協議会同士で判断できる。協議会同士の総事業費の予算配分を知ったことで混乱するのは、「予算配分をする主体」である委員会であり、我々協議会・運営委員会ではない。事業企画・予算執行に際し細かい指導を入れるより、協議会自らが事業の妥当性を判断させた方が、お互いに事業をスムーズに運営できるのではないか。
- ・コーディネーターへのデジタル化研修(参加申し込みや案内チラシ、アンケート等)
- ・いただいているお金を大変ありがたく使わせていただいている立場ではありますが、年々活用場面が限定されています。文科が言及してくることなので、地教が無力であることも理解しているものの、感情論として残念に感じています。もっと弾力的に活用することができれば大変ありがたいです。「昔はよかった・・・。」そんな思いで毎年活用させていただいております。
- ・予算の使用範囲が狭まってきていて、なかなか学校が実施したい活動に予算が使えないという状態がある。
- ・コーディネーターやボランティアの高齢化、会長や総合コーディネーターの次の担い手がいらない。
- ・どんどん縛りが厳しくなることです。
- ・予算不足(燃料や物品、人件費の高騰、報償費減額による関わる人数の制限)

〈地域〉

- ・教育協議会の認知度の低さ。
- ・コーディネーターを募集したりするが、なかなかやり手が見つからない
- ・地域で決める学校予算の規制が厳しすぎる。もっと助言が欲しい。

⑤ 課題を解決するために必要なことについて（複数回答）

前問項目の課題より、地域も学校園も、「次世代の人材発掘と育成」を課題解決に必要としている。次点も、ともに「教職員とコーディネーターの情報交換の充実」であり、課題解決のために教職員とコーディネーターの情報共有の場が必要である。また地域は事業に関する広報の充実を求めている、担い手不足の解決に期待を寄せていることがわかる。

項目	地域(回答者数66)		学校園(回答者数77)	
	回答数	割合	回答数	割合
教職員とCNの情報交換の充実	33	50%	20	26%
他校区のCNとの情報交換の充実	7	11%	3	4%
学校園の教育方針等についての意見交換の機会の充実	11	17%	5	6%
年間を見通した事業の計画	10	15%	12	16%
学校園における活動拠点（地域ルーム等）の設置等の受入体制の充実	7	11%	3	4%
事業に関する広報（広報誌やWebページ）の充実	18	27%	3	4%
地域教育協議会等主催の教職員を対象とした報告会や研修会の充実	7	11%	7	9%
地域教育協議会等主催の保護者を対象とした報告会や研修会の充実	7	11%	2	3%
地域教育協議会等主催の地域住民を対象とした報告会や研修会の充実	5	8%	7	9%
次世代の人材発掘と育成	44	67%	47	61%
その他（自由記述）	2	3%	17	22%
	151		126	

回答数が上位3位までの項目

順位	地域			学校園		
	項目	回答数	割合	項目	回答数	割合
1	次世代の人材発掘と育成	44	67%	次世代の人材発掘と育成	47	61%
2	教職員とCNの情報交換の充実	33	50%	教職員とCNの情報交換の充実	20	26%
3	事業に関する広報(広報誌やWebページ)の充実	18	27%	年間を見通した事業の計画	12	16%

【その他(自由記述)】

〈学校園〉

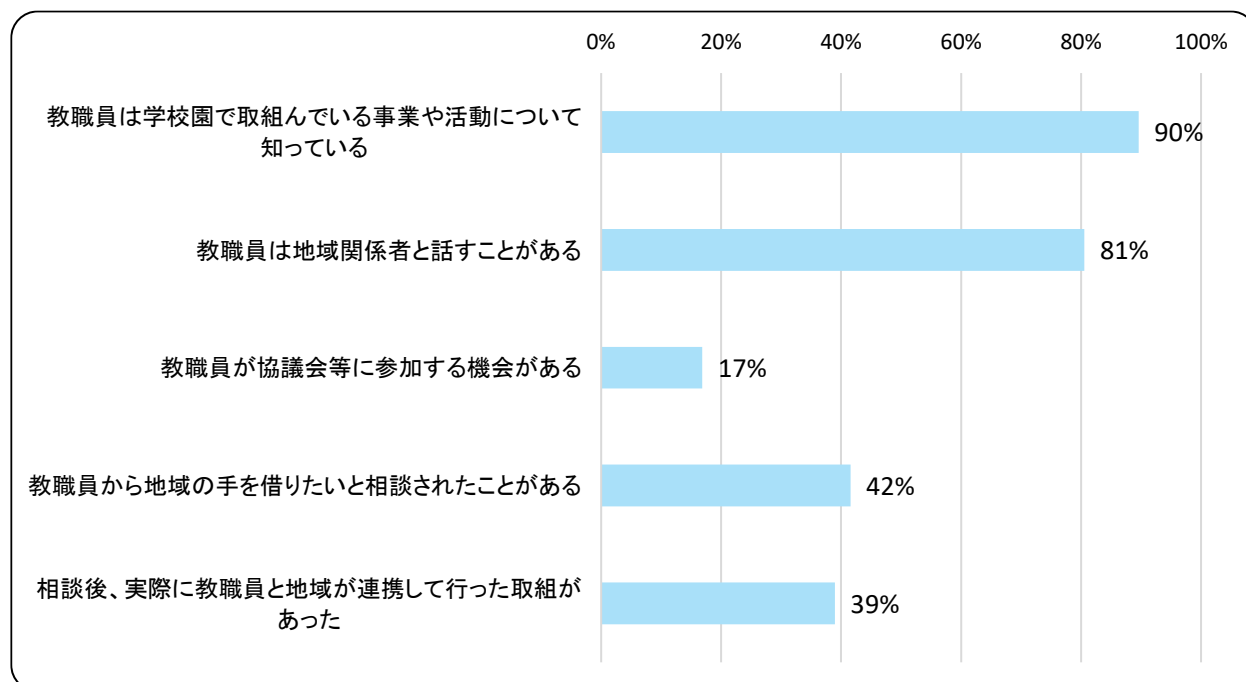
- ・国への働きかけ
- ・使えない費用はどんなものがあるのか、間違えそうな具体的な例が示されているようなものがあらかじめあると、考えやすい。
- ・教育課程と絡めた事業の計画
- ・事業自体の見直し
- ・教育委員会と学校との十分な打ち合わせ
- ・地域の実情に応じた適切な規模・内容の事業運営のあり方を探ること(市内で一番活動が盛んな地域に基準を合わせるのではなく)。
- ・もう少し予算の使い方の制限が少なかったら事業が進めやすいと感じます。
- ・校舎の増設
- ・活動が土日祝、平日の夜遅くなどと広がってくると、良い活動とは分かっているが、協力体制を組みにくい。・地域コーディネーターの皆さんのやる気に教員がついていくのが難しい現状も生まれているため、取組の見直しや精選、アップデートが必要不可欠である。そのために、今年度は事業後にコーディネーターを交えた振り返りを実施する時間を例年以上に設けた。・地域コーディネーターの本校に関わる経験年数が多い教員よりもはるかに多いため、どちらが主体の取組が分からなくなっている現状がある。これについても、計画段階から教員が意義を感じることが出来る取組となるよう、コーディネーターと教員の打合せを密にする等、初動を早めていきたい。
- ・土日の行事には教職員が参加できないという地域の理解
- ・地域教育課の意識改革。事業企画・予算執行に際し指導、監視する役割ではなく、どうすればうまく会計処理できるか(予算が執行できるか)をアドバイスするか、上記の情報公開をして各協議会・運営委員会の方針をできるだけ定めやすくするのが役割であると認識する。
- ・上述のとおり、無力なのは承知しつつも地教が現場の声を届けてもらいたい。それも、各郡市や地方が単発に挙げるのではなく、奈良市教育委員会のように横の連携を密にさせていただき、他郡市や他府県の地教に相当する組織と連携していただきながら声を上げていただければ大変ありがたいです。
- ・窓口である教頭業務の軽減。代休の確保、つまり現場の人員確保。
- ・業務の精選です。
- ・地域教育課の手助けや温かい眼差し、理解
- ・教職員の働き方改革等について、地域への啓発活動を教育委員会等が行う。地域の方の中には、土日祝日であろうと教職員は地域行事に参加するのが当たり前と考えている人もいる。

〈地域〉

- ・PTA(保護者)の理解と協力があればと思う。
- ・教育委員会と学校、地域の連携強化と、教職員の事務的負担軽減

⑥ 管理職以外の教職員の事業の認知度について（学校園のみ）（複数回答）

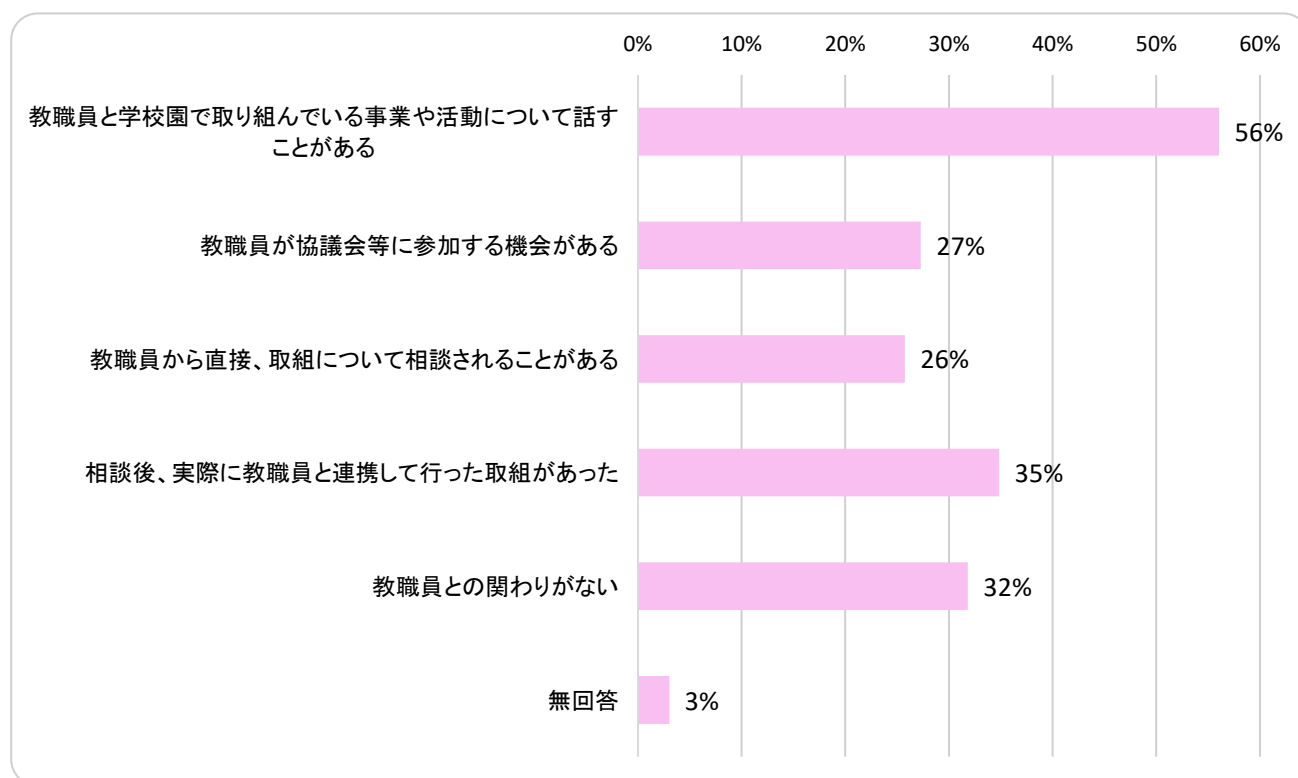
「教職員と学校園で取り組んでいる事業や活動について話すことがある」という回答が90%と高い割合となっており、学校園での地域教育推進事業の認知度は高い。また「教職員が地域関係者と話すことがある」という回答も80%を超えており、教職員の事業への理解は進んでいる。「教職員から地域の手を借りたいと相談されたことがある」が40%を超え、「相談後、実際に教職員と地域が連携して行った取組があった」の回答数もほぼ同数値となっていることから、地域と連携して取組を行えていると伺える。



学校園（回答者数77）		
項目	回答数	割合
教職員は学校園で取り組んでいる事業や活動について知っている	69	90%
教職員は地域関係者と話すことがある	62	81%
教職員が協議会等に参加する機会がある	13	17%
教職員から地域の手を借りたいと相談されたことがある	32	42%
相談後、実際に教職員と地域が連携して行った取組があった	30	39%

⑦ 管理職以外の教職員との関わりについて（地域のみ）（複数回答）

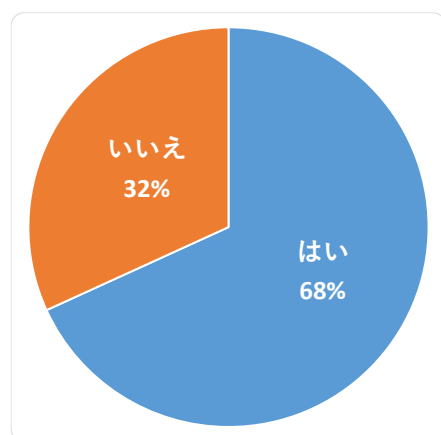
一方、地域関係者は「教職員と学校園で取り組んでいる事業や活動について話すことがある」との回答が56%にとどまり、「教職員から直接、取組について相談されることがある」は26%となっているのに対し、「相談後、実際に教職員と連携して行った取組があった」の回答は35%であった。「教職員との関わりがない」という回答は32%と、前問と比較すると、地域と学校園の認識に差がある。地域と学校園が情報共有できる場を設け、相互理解を深めることが求められる。



地域（回答者数66）		
項目	回答数	割合
教職員と学校園で取り組んでいる事業や活動について話すことがある	37	56%
教職員が協議会等に参加する機会がある	18	27%
教職員から直接、取組について相談されることがある	17	26%
相談後、実際に教職員と連携して行った取組があった	23	35%
教職員との関わりがない	21	32%
無回答	2	3%

⑧ 学校運営協議会の委員について（地域のみ）

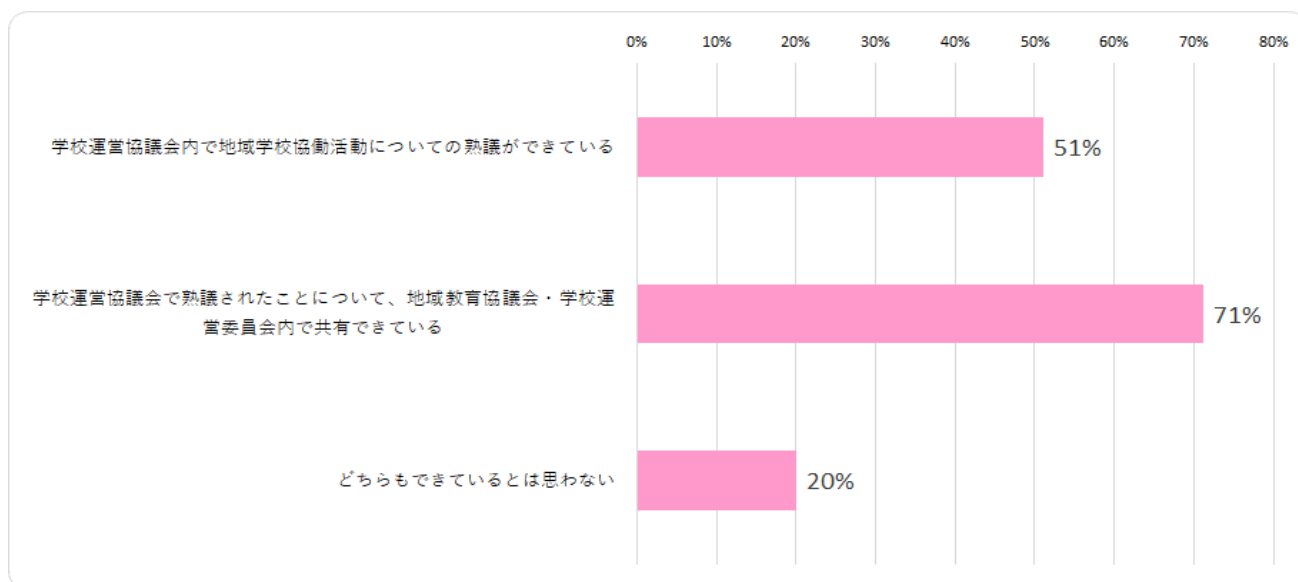
⑧ - 1 学校運営協議会の委員を委嘱されていますか？



地域（回答者数66）		
項目	回答数	割合
はい	45	68%
いいえ	21	32%

⑧ - 2 Q8で「はい」と答えた方にお聞きます。（あてはまるもの全てを選択してください） （地域のみ）（複数回答）

「学校運営協議会内での地域学校協働活動についての熟議ができている」との回答が51%にとどまっている。「地域教育協議会・学校運営委員会で、学校運営協議会で熟議されたことについて共有できている」の回答は71%あるものの、「どちらもできていない」との回答が20%あることから、学校運営協議会と協働活動の連動が不十分と感じている学校運営協議会委員が一定数いることがわかる。

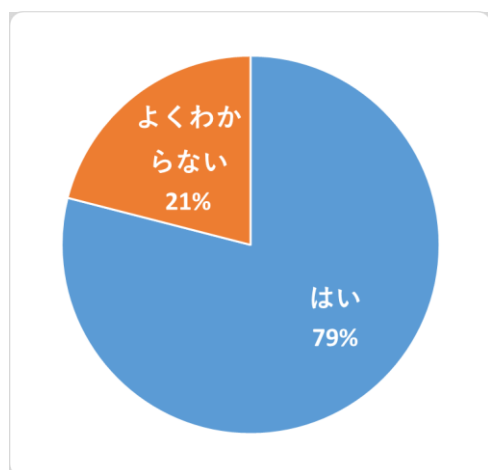


地域（回答者数45）		
項目	回答数	割合
学校運営協議会内で地域学校協働活動についての熟議ができている	23	51%
学校運営協議会で熟議されたことについて、地域教育協議会・学校運営委員会内で共有できている	32	71%
どちらもできていないとは思わない	9	20%

⑧ - 3 Q8で「はい」と答えた方にお聞きます。

学校運営協議会と地域教育協議会及び学校運営委員会の役割の違いが理解できていますか？

(地域のみ)



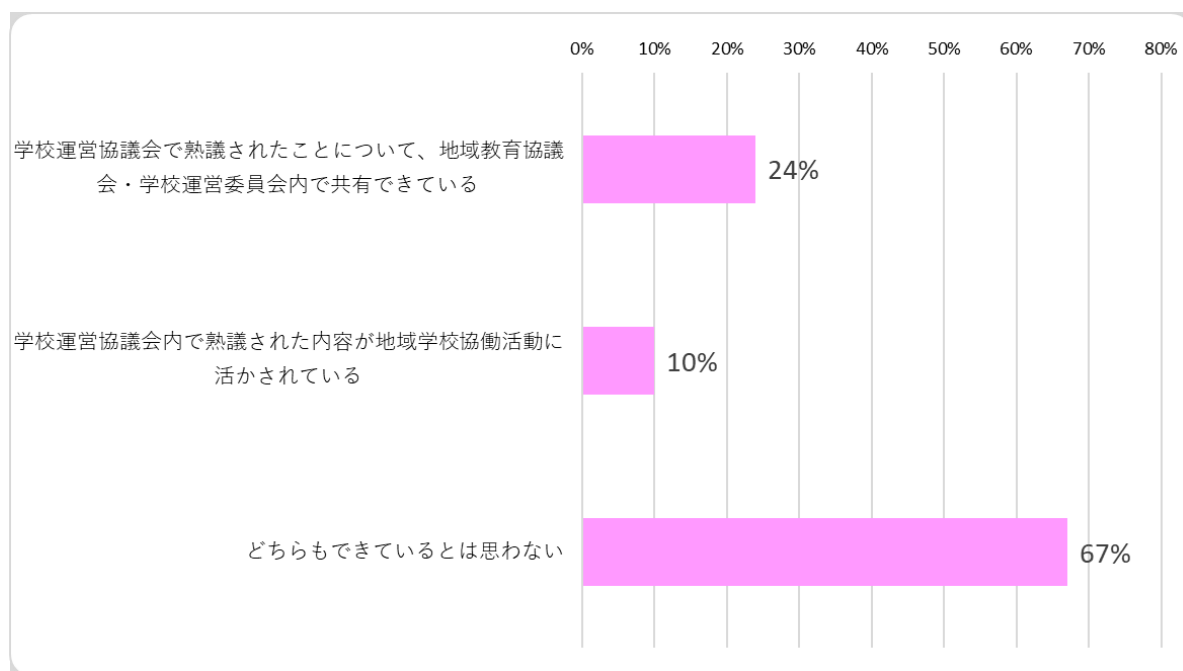
地域(回答者45)		
項目	回答数	割合
はい	36	79%
よくわからない	9	21%

よくわからないと返答の方

- ・事業内容について、説明のみで、話し合いの場が少ない。
- ・学校運営協議会で学校・地域の方針や課題を話し合い、決定し、地域教育協議会および学校運営委員会が実行部隊として活動する、と説明していただきましたが、それ以上のことを理解できておりません。どう連携を取るのが理想なのか、どちらが主なのか等、細かいところは分からず、両方の会議に出ている意味を活かしきれていないと感じ、モヤモヤする思いがあります。
- ・名称が似ている判別しにくい。それぞれの会の役割をつかみにくい。
- ・なんとなく理解している程度。理解できているまでは言いづらい。
- ・メンバーもいっしょの方が多し 違うと言えば違うけど、そんなに違う気がしない。

⑧ - 4 Q8で「いいえ」と答えた方にお聞きします。(あてはまるもの全てを選択してください)
(地域のみ) (複数回答)

「学校運営協議会内で熟議されたことについて地域教育協議会・学校運営委員会内で共有できている」、「学校運営協議会内で熟議された内容が地域協働活動に活かされている」との回答はきわめて低い上、「どちらもできていない」との回答が67%ある。学校運営協議会と協働活動の連動に課題を残す結果となった。



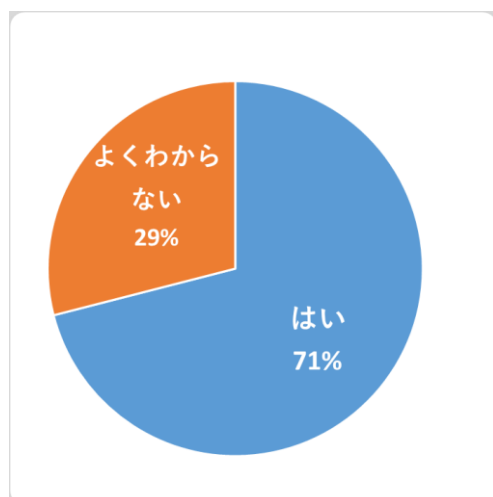
地域(回答者数21)		
項目	回答数	割合
学校運営協議会で熟議されたことについて、地域教育協議会・学校運営委員会内で共有できている	5	24%
学校運営協議会内で熟議された内容が地域学校協働活動に活かされている	2	10%
どちらもできていない	14	67%

⑧ - 5 Q8で「いいえ」と答えた方にお聞きします。

学校運営協議会と地域教育協議会及び学校運営委員会の役割の違いが理解できていますか？

(地域のみ) (複数回答)

学校運営協議会と地域教育協議会及び学校運営委員会の役割の違いが「理解できている」との回答が71%に対して、「よくわからない」の回答は29%あることから、学校運営協議会と地域教育協議会及び学校運営委員会の関係、役割について理解不十分なコーディネーターが一定数いることがわかる。



地域(回答者21)		
項目	回答数	割合
はい	15	71%
よくわからない	6	29%

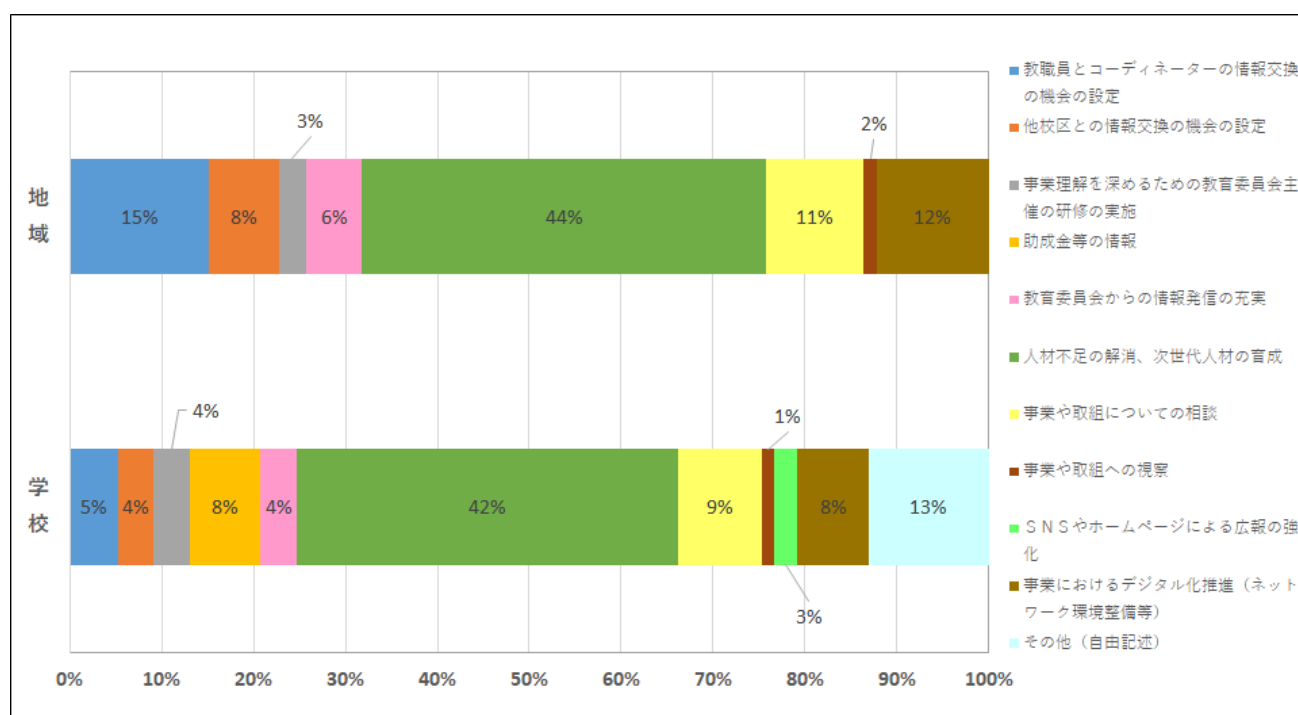
よくわからないと返答の方

- ・学校運営協議会の会議に参加したことがないため。
- ・委員をされてる方がどちらも重複してされている方が多いので、あまり違いがわからない。

⑨ 今後特に必要と感じる地域教育課の支援について（一つのみ選択）

地域教育課に求める支援として、地域、学校園ともに「人材不足の解消・次世代の人材育成」が40%を超える回答数となり、課題の解消を要望していることが伺われる。地域の回答の次点は「教職員とコーディネーターの情報交換の機会の設定」であることから、交流の機会の継続した創出を必要としていることがわかる。また、地域・学校園とも「事業におけるデジタル化推進（ネットワーク環境整備等）」に回答があり、事業のデジタル化を進める必要性を感じていることがわかる。

項目	地域（回答者数66）		学校園（回答者数77）	
	回答数	割合	回答数	割合
教職員とコーディネーターの情報交換の機会の設定	10	15%	4	5%
他校区との情報交換の機会の設定	5	8%	3	4%
事業理解を深めるための教育委員会主催の研修の実施	2	3%	3	4%
助成金等の情報	0	0%	6	8%
教育委員会からの情報発信の充実	4	6%	3	4%
人材不足の解消、次世代人材の育成	29	44%	32	42%
事業や取組についての相談	7	11%	7	9%
事業や取組への視察	1	2%	1	1%
S N S やホームページによる広報の強化	0	0%	2	3%
事業におけるデジタル化推進（ネットワーク環境整備等）	8	12%	6	8%
その他（自由記述）	0	0%	10	13%
	66	100%	77	100%



回答数が上位3位までの項目

順位	地域			学校園		
	項目	回答数	割合	項目	回答数	割合
1	人材不足の解消、次世代人材の育成	29	44%	人材不足の解消、次世代人材の育成	32	42%
2	教職員とコーディネーターの情報交換の機会の設定	10	15%	事業や取組についての相談	7	9%
3	事業におけるデジタル化推進(ネットワーク環境整備等)	8	12%	助成金等の情報	6	8%
				事業におけるデジタル化推進(ネットワーク環境整備等)	6	8%

【その他(自由記述)】

〈学校園〉

- ・金銭に関わる業務・処理等に莫大な時間がかかるので、部分的(税金関係など)にでも学校以外で担っていただけると助かります。
- ・すべきなのは「支援」ではなく、地域教育課がこの事業についての根本的な見直しを行うことだと思う。このままでは、持続可能でないのではと思う。
- ・困ったときにいつも相談にのってくださるのでとても助かっています。
- ・事業全体のことについて自分自身がしっかりと理解できていない(活動内容・会計等)
- ・本取組における地域や学校間格差の是正、地域事業に係る教員と地域コーディネーターの業務の境界を示す(例えば、会計業務は〇〇が担当する等)
- ・1つしか選択できないので、こちらに列挙させていただきます。・教職員とコーディネーターの情報交換の機会の設定・助成金等の情報・人材不足の解消、次世代人材の育成
- ・使いやすいお金が必要です。ペットボトルのお茶がダメなど、現状に合わない細かい決まりが、いろいろな弊害になっている。現場の状況にあった支援と理解をお願いします。
- ・さらなる業務の簡素化です。それから、単に「これは支出できない」ではなく、「こういう形でどうでしょうか」と提案してほしいです。
- ・学校側にコーディネーターとして従事する人材の配置
- ・学校が自由に使えるお金を増やすことで、学校ごとに特色を生かす。報告書は更にしっかりしたものを提出させる。

⑩ その他事業に関するご意見について(自由記述)

〈学校園〉

- ・今年度初めてこの事業に携わらせていただいたので、理解が不十分なところもありました。途中の説明会で具体的な取組を紹介して頂いたので、少し理解できたところがありましたので、来年度初めの説明会でもぜひ、具体例を示しながら説明して頂けるとありがたく思います。
- ・今後も出来るだけ柔軟に活用できる事業として継続していただきたい。
- ・いつもありがとうございます。地域・学校とさらに連携を深めて取り組んでいきたいと思いますので、今後ご支援よろしく願いいたします。
- ・事業や取組について、いつもご相談いただき、とてもありがたく思っています。地域教育課の方にお話を聞かせてい

ただくと、とても納得できるのですが、自園の取組に当てはめていくと、疑問やつまづきが多々出てきます。とても申し訳ないと思っていますが、今後もご相談やご指導をお願いしたいと思っています。よろしくお願いいたします。

- ・総合コーディネーターをはじめ、地域コーディネーターやボランティアの方々は、学校に対して理解があり、協力してもらっている。しかし、現メンバーの後継がなかなかおらず、人材発掘や継承が課題と考える。
- ・事業については、子どもたちや園が地域の方々と関わることのできる貴重なものだと思います。事務関係(計画から実績)の変動をもう少し柔軟に取り扱っていただけると良いと感じます。
- ・どうしても地域事務の中心が学校になるケースが多いが、地域が中心になり主体的に実施し、事務的なことも地域のコーディネーターを中心にできるような活動になればよいと考える。
- ・様式や帳簿類を以前よりシンプルにさせていただきありがたかったです。今後とも事務負担軽減をお願いします。
- ・地域教育課が説明している内容、今回のアンケートにしても、地域教育課が「支援」というスタンスなのはどういうことだろうと思う。少子化、高齢化、人口減少の中で、この事業のままで「地域」に頼ることは限界を迎えていると感じる。根本的に見直してほしい。
- ・地域予算で買えるもの買えないものなど、国の基準をきちんと示してもらい、それに従って予算を編成したい。今の状態であれば、せっかく考えて計画しても、OK がもらえないことが多い。また、事業内容について相談できる体制をお願いしたい。
- ・Q5 でも書かせていただいたが、本校区を含む東部山間地域は深刻な人口減少と高齢化の進展、児童生徒数の減少、学校規模の縮小の課題を抱えている。加えて、PTA 事務局など本来保護者が行うべき業務も学校が担っており、特に教頭職の負担は大変大きくなっている。このような現状を踏まえて考えれば、本地域では「事業を拡大する」のではなく、「事業を取捨選択し、資源を集中させて効果的な運営を図る」ことが、取るべき道ではないかと考えている。地域教育課もこのことを十分ご理解いただき、本校区の地域教育活動にご支援をお願いしたい。
- ・使用してよい例、使用できない例を具体的に、分かりやすく、詳細を教えていただきたいです。
- ・バランスをとりながら実施できるととても素晴らしい事業であるが、学校現場はこの取組だけではないため、広がりを見せすぎたり、バランスが壊れたりすると破綻がくる。その調整や学校現場の実情を正しく理解してもらえるよう、教員が地域コーディネーターに働きかけをする必要がある。この取組について、学校現場の実情から、ほぼすべての取組について、何らかの形で教頭を介することになるため、教頭の負担が非常に大きい。学校が関わらなければ成り立たない地域の取組が増えすぎていることも課題であると感じている。
- ・地域の方が学校現場の働き方改革についていっていない。その意識改革をお願いします。
- ・各協議会・運営委員会の横の情報交換。年数回の集まりの場はあるが、具体的にどのような取組がなされたのかデータの参照ができない。上記の通り、データ上の横のつながりがあれば、自校区の実情に照らした事業の企画、運営が大幅にはかどる。詳細は直接その協議会(運営委員会)に聞けば事足りる。ぜひ来年度から上記の提案を受け入れてほしい。
- ・事務作業がさらに軽減されるとよい。
- ・Q5 にて回答させていただいた通りです。ぜひ広域の連携で文科に声をあげてください。コンプライアンス的にそれでも文科は動かないでしょうが、部活動の地域展開なども地教がかかわっていかなければならない内容になってくると思いますので、新たなシステムを構築してくださるかもしれません。そんなきっかけになればと思います。ぜひよろしくお願いいたします。
- ・都跡中学校区の学校・園所の連携の基盤を、地域教育協議会が支えつないでもらっている。時宜に応じた理想的な活動が展開されている。その結果については、学校評価(園・小・中)に如実に表れている。
- ・いつも相談に乗っていただきありがとうございます。地域との活動において、予算の使い方が複雑で難しいです。今までが緩かったのかもしれませんが、もっと詳しく、例などあげていただければより分かりやすくなるのではない

でしょうか。ずっとしているのではなく、管理職になって関わるので、お金の使い方がもっと具体的に分かりやすくなると嬉しいです。

- ・地域コーディネーターの皆様の温かく、協力的な姿勢が根底にあるからこそ、素晴らしい活動につながっていると日々感謝しています。

〈地域〉

- ・地域の個性が生かされる推進事業になってきている。
- ・いろいろとサポートしていただき、いつもありがとうございます。この活動に長く関わるほど、管理職や教職員の先生方とコミュニケーションを取る重要性を強く感じます。子どもたちにとって必要な活動を、先生方から提案いただけるような関係性が築けるように、今後も活動していけたらと思います。
- ・小規模校は、予算がつきにくい、児童生徒数が少なく、活動も CN 不足で制限される。合理的配慮を望む。
- ・地域の地縁団体の高齢化が甚だしく、世代交代ができていないため、学校運営委員会の議論も活性化せず、マンネリな話し合いが繰り返されている。学校運営委員会の委員の任期をきめるとか、定年制を導入しないと、先生方の思いや現場感がつたわらない。
- ・県内の企業に参加いただけたらありがたいと思います
- ・管理職以外の先生方とは話す機会はあるが、多くはない。また実際の活動に参加される先生も少なく、活動についてどう感じておられるのかなと思う。次の交流の集いで先生方とお話出来る事に期待している。
- ・生まれ育った地域に誇りを持つ子どもを育てたい。
- ・部活動の地域移行等、学校と地域が共働して行わなければならない取組が多くなってきている中で、この事業がより必要性になっているにもかかわらず、働き方改革など整理していかなければならない問題が多く残されている
- ・決算書類のペーパレス化に取り組んでいただきありがとうございます。記入欄を出来るだけ簡潔にしていただけると助かります。
- ・年々、アドバイザーさん・、安全管理員さんの年齢が上がっていく中で、若い保護者の方々の参加をと思っているのですがなかなか難しいところです。PTA 活動も崩壊しつつある中で、どのようにしていくのが良いのか？早急に考えないといけない課題と捉えています。他校で PTA が「役員だから…」ではなく自主的に行ってらっしゃるところがあればお話しをお聞きしてみたいです。
- ・地域行事(年1回)の、より柔軟な予算執行をお願いします。
- ・校区によってコーディネーターの決め方は様々だと思うが、PTA からの当て職としてコーディネーターを決めている校区は、そもそも PTA の会員が減少していく中で、なり手が少なく年々苦勞されている。中には 1 年交代となっているところもあり、コーディネーター職として機能していない校区もある。
- ・イベントや課外活動を行うときに、全てをコーディネーターが担うのは大変なので、外部団体の紹介があると助かる。
- ・できるだけ年度途中からの事業内容などの変更・更新を避け、前年度に充分説明理解を経て後に、新年度から適用するようにしてください。
- ・各事業におけるコーディネーターへの負担が大きい。それぞれにまつわる各会議への出席、打ち合わせ、学校、教職員との連携、諸団体への学習支援の協力依頼、実施、まとめ、会計処理等…。ボランティアとしての範囲は逸脱していると思われる。世代交代したいが、ひとたび関わりと、上記の様な内容がもれなく付いてくるので、PTA すら崩壊している忙しい保護者世代の現状がある中、バトンを渡しづらい状況に置かれている。辞めるにやめられない。担う人材が豊富で事業として予算も充実していれば、このような事は思わないのかもしれないが…地域教育は必要と唱える背景では、予算は年々縮小傾向、ボランティアという名の下に善意の搾取を感じるのは私だけだろうか？この事業に関わり 10 年を過ぎて思う。

- ・教育委員会の課同士で、しっかり横軸を作り、連携した学校教育活動に向けしっかりと支援していただきたい。今は、地域教育課、学校教育課、教育総務課の横のつながりを全く感じ得ない。それでは現場は疲弊してしまうし、教職員も窓口がいくつもあって事務的手続きも煩雑になっている。われわれ地域においても、もっと合理的な方法を模索して、円滑な運営に努めていきたい。
- ・子どもたちのために、コロナの後以前のような繋がり直しが必要とコーディネーターは活動しているが、世の中の流れも以前と違ってきている。現在の風潮に合った活動をしている事例があれば知りたい。
- ・仕事を持つ中で、毎月、交流の集いの作業部会に出席するのは負担に思う時があります。教職員の理解が得られないと話を耳にするので、毎年、全校区が一堂に集わなくも、全体でテーマを決めて、各校区で話し合う会があっても良いのかなと思います。
- ・学校運営協議会と地域教育協議会及び学校運営委員会との違いの質問は、理解できていて当然であり、愚問である。
- ・教育協議会が主体性を持った運営が必要であり、この事業での専門知識を持った人材が居ないのは寂しい。
- ・市教委の事業に対する問いかけに、助言が少ない。